

## 【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ (地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)



参加者 (順不同・敬称略)

和崎 宏 (ファシリテーター)  
 笠松 真吾  
 坪田 知己  
 畑井 克彦  
 濱田 真輔  
 早瀬 公夫

### 知徳報恩

「知徳」は、他者による貢献を認識すること。  
 「報恩」は恩を与えてくれた社会 (仏教では仏)  
 や他者に報いて社会貢献すること。  
 古くから仏教では、感謝をすることを他者への報  
 いの形として重視している。  
 日本が世界に発信できる未来の社会哲学がここに。

慶応大学教授・国領二郎氏



## 【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ (地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

フェイスブックグループにおける事前意見交換 60コメント 94人既読 3月11日14時現在

「コミュニティの強化」と「豊かな社会づくりを実現するためのコミュニティの基盤」

- ・若者たちが触媒となり、地域のステークホルダーのつながりを拡大深化させる(畑井氏)
- ・地域コミュニティの基盤を情報化の側面から支える仕組みが必要(早瀬氏)
- ・地域に多様な考えを容認し対話を重ねる共育(folkeoplysning)の場を再興する(星野氏)
- ・多様で多彩なユニットをゆるやかに連携する場と外部から支援するステークホルダーのネットワークをデザインする(坪田氏)
- ・ステークホルダー同士がネットワーク化し、協働で課題解決を実現していくことで、地域コミュニティを支援するつながりが創造される(畑井氏)
- ・「自治体の課題<地域の課題」ということをしっかりと認識し、自治体を含む社会のステークホルダーをつなぎ、協働で課題解決に挑むネットワークを創ることを目標とすべき

**地域のアクティビストをサポートするステークホルダーのゆるやかなネットワーク**

**協働で課題を解決するデザインと対話により地域で共に学び合う場づくり**

【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

多様な社会課題を地域内連携で解決する情報化



【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

北欧の民主主義、市民社会の根幹をなすスタディーサークル

100年以上の歴史

学習協会1894年設立

禁酒運動・労働組合・環境保護

『民衆教育』お互いに学び合う

運営資金は、6割国・4割参加者



- 1) 民主主義の強化と発展に貢献する活動への支援
- 2) 人々が自らの生活状況に影響を及ぼし、社会の発展に参画することを可能とすることへの貢献
- 3) 教育格差をなくし、教育水準の向上と社会における文化的意識を高めることへの貢献
- 4) 文化的な生活への関心を広げ、参加を促進することへの貢献

- ・スタディーサークルの数：27万2000団体
- ・合計の参加者数：170万人（2015年）
- ・月2回の学習会が4ヶ月継続
- ・3人集まれば結成可能
- ・10種類の学習協会に登録することで施設・助成金の利用が可能
- ・政治的な結びつきもある（ABF=社会民主党系、Mbsk=穏健党など）
- ・リーダーは民主的な運営の方法を学ぶガイダンスを受ける

<https://children.publishers.fm/article/19724/>

7

【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

## 「講」の分類

宗教的結縁 グループ	代参講 神道の講	講のメンバーが積み立てをして毎年代表者がお参りをする。
経済的共助 システム	頼母子講 無尽講 模合講	定期的に徴収して積み立てた会費を、講のメンバーの経済的支援に充てる。山梨の「無尽」はその名前からも元は経済的な講であったものと推察されるが、現在ではほとんどの無尽講や模合講は、親睦や情報交換のためのネットワークとなっている。
地域介護 システム	看取講 葬式講	看取講は、平安時代、比叡山の源信によって始められたシステムで、戦後忘れ去られた。メンバーの中に死に至る病にかかったものが出ると、講員は介護所を定め、ローテーションを組んで、24時間介護体制をしいてこれを看取る。月に1度集まってお勤めを行う。
地域協働 ネットワーク	結講 手間講 手間替講	現金を交えない労力交換。田植え稲刈りなどの農作業のほか、屋根講(普請)なども講メンバーの共同作業であった。「筋い(もやい)」や入会地を講員で共同管理する「契約講」も、もとは結講から始まっている。

岡田,2006,『地域をはくむネットワーク』,p.11-13より,筆者(2008)が作表

5

【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

- 地域DXはトップダウンだけでは難しい。ボトムアップとの合わせ技が必要。
- 枠にはめることで、地域で自然に生まれる協働の芽を摘んではいけない。
- 意識下にあるヤル気や本気を、対話により言語化して、協働につなぐのが肝要
- 優秀なファシリテーターを随所に配置して、適材適所のテーマをあぶり出す
- 子どもが主役となる協働作業を、だれの目にも見える形で実践していく
- 商店や会社が地域に「縁側」を提供し、地域のメンターが学びをサポートする

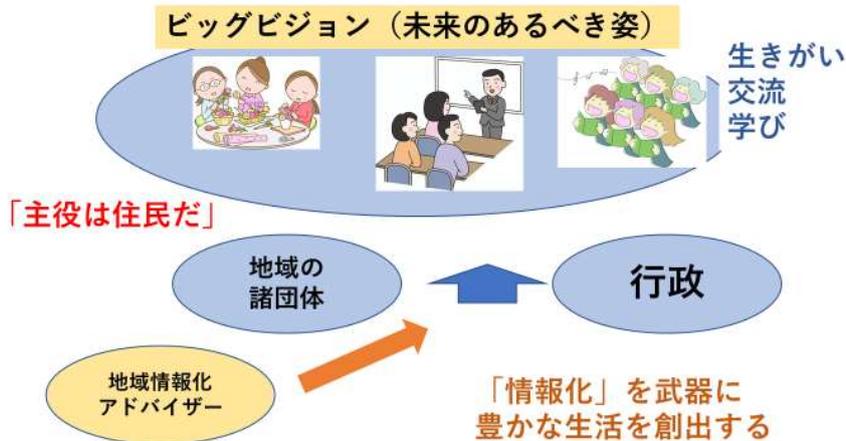
【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

ステークホルダーネットワークと連携する地域の学び



12

【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)



【第11分科会】豊かな社会づくりを目指すダイアログ  
(地域の多様なステークホルダーにどう働きかけるか)

## 地域情報化アドバイザーの役割

1. 「情報化」は、コミュニケーションを豊かにして、人と人が笑顔を作り出すこと。
2. ビッグビジョン（未来のあるべき姿）を描こう。
3. 住民と行政がコラボして、地域情報化アドバイザーがそれをサポート

**「主役は住民だ」**

2